

アフリカ地域パートナーバイヤーからの タンザニア・ケニア産地レポート

*産地訪問期間 2012年6月19~29日

タンザニア

●概況

収穫のピークが年1回である同国の現状は2012/13クロップの収穫真っ最中であります。全体としては今年はいわゆる表作になり昨年落ち込んだボリュームは回復します。通常の収穫時期は早い地域で5月より開始され10月ごろまで続きます。今年は昨年の反動で収穫から精選まで早目に進みそうで、ニュークロップ到着も年末より手前で確認することも可能そうです。ただし一部地域では表裏に関係なく昨今の温暖化や気候パターンの悪化により収量が年々悪くなる地域もあります。オークションは一時中断中で、再開は恐らく7月中になりそうで昨年クロップの繰越玉とニュークロップのロブスタが出品されて新しいシーズンがスタートしそうです。各地域の状況は下記に別々にレポート致します。

●下記はタンザニア大手現地輸出業者からのクロップ見込みです。

2012/13 クロップ見込み

MBEYA	MBINGA	NORTH	KIGOMA	HARDS	TOTAL(mt)
11.5	12	8	1.3	30	62.8

同国コーヒーは大きく分けると、北部産アラビカ、南部産アラビカ、ロブスタの3つになります。昨年クロップは全体で33,000トンであったので62,800トン見込みは明るい兆しです。問題点として毎年このように表裏の収量差が激しく安定性にかけ、また今年のように量が見込まれる場合は精選プロセスや乾燥がオーバーフローし品質に悪影響がないかが問題視されそうです。



北部

モシ (MOSHI)

●キリマンジャロ山麓の水源豊富な地域。11,12月に降雨があり開花し順調に生育したコーヒーは、低地産では1回目の収穫が4月ごろから始まり一度7月ごろで区切れ、8月ごろから10月ごろまで2回目の収穫がピークを迎えるとのこと。例年はまとまった期間に収穫が行われるが今年は稀なケースであるとの声も。

アルーシャ (ARUSHA)

●昨年11,12月の開花の雨は十分であったがその後の降雨不十分でアルーシャ地区は絶対的降雨不足と言えそうです。特にここ3年は全体の表裏に関係なく生産量が落ち込んでいます。農園によってはイリゲーション設備はありますが、地下から吸い上げるもので当然十分ではなく、場所によっては土も乾燥して見受けられます。収穫はスタートしており8月ごろまでにはほぼ今期は終えそうとのこと。



カラツ (KARATU)

●小農家は少なく、いわゆる大規模農園が多い北部カラツ地区。アルーシャ地区同様に開花後の果実生長に必要な降雨は不足したと言う報告を聞いています。同地区の降雨不足以外での問題としてCBDは以前ほどの影響はないが、大きな問題のひとつとしてンゴロンゴロ自然保護区隣接という環境での野生動物による被害があげられます。像や水牛などが農園を踏み荒らし、シェードツリーであるアビシニアを食べ解決策が難しいということも。自然保護区側とはなるべく野生動物保護のために自然環境を守るという目線でしか話を聞いてもらえないらしく、簡単にはいかないのが現状です。

南部

ンベヤ (MBEYA)

●昨年9月～今年4月まで十分な降雨があり開花も9月～11月に見られ、結実から成熟まで順調であった様子。収穫は5月からスタートし、おそらく8月末までには完全に終わるであろうとのこと。大きな病害虫の被害報告もなく、表作でもありボリュームが見込まれるとのこと。農家サイドは順調にすすんでいます。大手ドライミルには6月中旬以降に若干数のパーチメントコーヒーが入荷し始めており、7月末くらいからミルをスタートするであろうとのこと、船積みは早くも9月ではないかと。

●南部エリアは北部と比較してコーヒー栽培の歴史も短く、適切なコーヒー栽培がなされてこなかった地域。確かに木を見ても北部のそれとは外観も収量も品質もいまだ劣っていると思われ（南部の主要栽培はN39）。しかしながらタンザニア収穫量全体の40%ほどを占める南部であるためポテンシャルは高いと言えます。最近ではその品質も向上し、北部産に負けないものも見受けられます。今後さらにしっかりとした農業実践が行われ、精選もHP（ホームプロセス）が減りCPU（共同ウェットミル）数が増加されれば、安定でかつ高品質なコーヒーが産出されることが予想できる見込みで期待したい地域と言えます。



ンビンガ (MBINGA)

Lima Limited in Mbinga

●栽培地域の標高はおよそであるが、丘陵地で平均1,300～1,700mと高いエリア。昨年10～11月に開花に必要な十分な降雨が確認されています。その後1月より再び果実を成長させる降雨が5月までの期間で約1,500mmと続き、収穫は6月より開始されています。これまで大きな病害虫の被害報告はないとのこと。8月まで収穫はピークとなり、少しずつミルへと持ち込まれてくる見込みです。

●同地区はいわゆる大規模農園はなく、ほぼすべて小農家から生産されている同国アラビ

力の一大生産地です。土壌は柔らかい赤土で肥沃そうに見えます。10～15 年ほど前に相場低迷によりコーヒー農家が一度離れた過去があり、再び従事し始めたエリアでもありません。同地区の主要栽培品種はンベヤ地区同様に N39。シェードの役割はバナナの木がメイン。果実は大きく歩留まりは良さそうです。同地区の利点は水源が豊富であることでンベヤ地区と比較してコーヒー農園周辺に潤沢な川が流れているようで多くの小農家も利用してコーヒー栽培に役立てています。気候も朝晩は肌寒く日中は暖かくとコーヒー栽培には適していると思われまますのでポテンシャルは大変に感じる地域と言えそうです。



ケニア

●概況

2011/12 クロップオークションも終盤をむかえ、バイヤーからの視線も 2012/13 に移りつつあります。ケニアクロップは赤道に近い国であるため年 2 回のピークがある収穫パターンで 2012 年 6 月現在はフライクロップの収穫終盤です。昨年 9/10 月に開花がありその後 10～12 月にかけて果実の生長を促す十分な降雨がありました。年明けから乾季に入り、果実の最終成熟を支える雨が 4/5 月にあり 4 月下旬よりフライクロップがスタート。6 月で収穫はピークをむかえ、フライクロップはこれから少しずつオークションへ出品されはじめますが例年品質は FAQ がメインとなります。船積みは 9 月以降から可能となりそうです。

メインクロップについては 2 月末に 1 回目の開花が見られ、イリゲーション設備のある農場では 3 月中旬にも確認されました。上記 4/5 月の降雨が 3 回目の全体的な開花の合図となり、今後一度 9 月まで乾季が続きその後の少雨期が再び十分であれば量的に明るい予想となりそうです。ただ一部地域では CBD の問題もあり今後の降雨量によってはその収穫量に影響が出る為に注意が必要であると考えます。

●現地輸出業者数社からのクロープ見込みの平均は以下の通りです。

2012/2013 クロープ見込み

フライクロープ・・・15,000～20,000トン(昨年は 18,000 トン)

メインクロープ・・・30,000～38,000トン(昨年は 29,000 トン)

●新種バチアンについて。2010 年に開発された同品種ですが、商業ベースとしてはまだまだこれからです。カップクオリティーは同国の主要栽培品種である SL28、34 やルイル 11 と比較しても非常に高いとの評判もありそして最大の利点は CBD 等の病気に耐性があることで今後が期待されています。マーケットに潤沢に出てくるには数年かかるとの見込みです。

